

Title	故遊部久蔵教授著作目録
Sub Title	A bibliography of the writings of the late Prof. Kyuzo Asobe
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1978
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.71, No.5 (1978. 10) ,p.908(280)- 912(284)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	遊部久蔵教授追悼特集号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19781001-0280

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

故遊部久蔵教授著作目録

1935年

「マルクスかワルラスか—労働価値説と平衡理論—」 理財学会誌 特集号

「国富論の出現」 理財学会誌

1936年

「対差地代と価値法則」 理財学会誌

1942年

「支那輸入経済学の特質と背景」 三田評論 535号

「支那の童工」 三田評論 539号

リチャード・ジョーンズ『地代論』共訳 日本評論社

1947年

「資本論劈頭の商品について」 三田新聞 566号

「インフレーションと価値法則」 経済評論 2巻7号

「インフレーション克服の二つの道」 日本経済機構研究所編「日本資本主義の展相」所収

1948年

「インフレーションの基礎理論」—俗流インフレ論の総括的批判— 思潮書林

「インフレーション理解のために」 書評 3—11

「労働の二重性とその展開」 三田学会雑誌 41巻1,2号

「価値表現の両極について」 三田学会雑誌 41巻10号

「中国労働者階級の状態」 好学社

「マルクス価値論の根本問題」—劈頭の商品について— 経済評論 3巻6号

「使用価値について」 社会科学(彰考) 17号

「価値と価格」 青木書店

「為替相場とインフレーション」 社会経済労働研究 2号

「榎田価値論の批判」 社会科学(彰考) 18号

「為替インフレの本質」 社会 3—4

1949年

〔書評〕 田中吉六「史的唯物論の成立」 読書倶楽部 17—18

社会科学事典に執筆 河出書房

「商品の二要因の対立について—反省規定の論理学—」 三田学会雑誌 42巻4号

〔書評〕 「戦後派『資本論』研究の抬頭」—武市・梯両氏の近業について— 書評 4—7

「価値論研究の立場と方法は如何にあるべきか」—価値論は如何に優位されるべきか、その根拠と性格— 季刊理論 9号

「価値論と史的唯物論—労働過程の二重性について—」 経済思潮 11号

「抽象的労働について」 唯物論研究 6号

「新民主主義労働者政策の歴史的背景」 中国研究 12号

「価値形態及び形態論について」 弁証法研究 1号

故遊部久蔵教授著作目録

「価値論の周辺」 思想 12号

「価値論と本質論—いはゆる『使用価値の捨象』について」 経済学（経済学研究会） 1号

『価値論争史』 青木書店

『マルクス価値論の根本問題』 時潮社

1950年

「カール・マルクス 人間の自己疎外と商品の物神性」 三田学会雑誌 43巻1号

「『使用価値の価値化』について—gelten als の理論的詮索—」 季刊理論 13号

『価値論と史的唯物論』 弘文堂

「『資本論』入門—マルクス経済学文献解説—」 三色旗 26

「資本論への道—戦後派の『資本論』研究方法の批判—」 を読みて— 経済評論 5巻12号

1951年

「リカードの不変の価値尺度論」 三田学会雑誌 44巻8,9号

「商品論—ひとつのよみかた—」 民主主義科学者協会編 講座「資本論の解明」 理論社

「私の自己批判—長谷部氏へ— 歴史的運動法則としての価値法則」 季刊理論 別冊 学習版1号

経済学事典 大阪市立大学経済研究所編 岩波書店

「理論経済学の根本的性格—マルクス経済学—」 経済評論 6巻4号

1952年

E・W・ハースト『アダム・スミス』 翻訳 弘文堂

〔書評〕 宇野弘蔵著「経済原論」（上・下） 思想 337

「『利潤率の傾向的低落の法則』への—接近—」 金融経済 17号

「資本論解釈学の深化と克服」 経済評論 7巻11号

「『生産的労働』について」 三田学会雑誌 45巻5号

1953年

〔書評〕 イートン『経済学』上・下 経済評論

「マルクス経済学（誌上講座 今日のエコノミスト）1, 2, 3, 4」 エコノミスト 6月27日, 7月4日, 7月11日, 7月18日

〔書評〕 宇野弘蔵著『恐慌論』 日本読書新聞 11月2日

1954年

経済学辞典 平凡社

「スミスのいわゆる『初期未開の社会状態』について」 三田学会雑誌 47巻4号

経済学事典に執筆（無記名） 平凡社

『経済価値論』 慶応通信

「アダム・スミスの経済学説」 高島善哉編 河出書房「経済学説全集」 2巻

1955年

「ロビンソン—ギルス—ドゥニの労働価値説に関する討論」 三田学会雑誌 48巻11号

『古典派経済学とマルクス』 世界書院

経済学大辞典に執筆 東洋経済新報社

「トレンズの価値および剰余価値論」 社会労働研究 3号

〔書評〕 久留間敏造・玉野井芳郎著「経済学史」 三田学会雑誌 48巻3号

「経済学者の責任」 経済評論 4巻9号

「マルサスの流通主義について」 経済研究 6-1

岩波小辞典「経済学」(都留重人編)に執筆 岩波書店

1956年

(座談会) 他四名 「マルクス経済学と近代経済学との対決をめぐって」 Books 79

「価値論からみたケインズ『一般理論』」 三田学会雑誌 49巻4号

「近代経済学とマルクス経済学との対決のために」 日本経済年報 90号

「近代経済学と価値論—ケインズ批判」 岸本誠二郎・都留重人監修 講座「近代経済学批判」東洋経済新報社

「経済学の対象、資本と賃労働、経済学の方法、剰余価値の形態」 経済学講座第一巻 大月書店

1957年

「世代」 三色旗 116

〔書評〕 ロナルド・ミック著「労働価値論研究」 三田学会雑誌 50巻7号

「経済学の対象と方法」(マルクス経済学第1講) 経済セミナー 1号

「労働価値説の歴史と現代—ミック『労働価値論研究』について—」 経済研究(一橋大学) 8(2)

「商品および貨幣」(マルクス経済学第2講) 経済セミナー 2号

「剰余価値の生産」(1,2)(マルクス経済学第3・4講) 経済セミナー 3・4号

「資本の蓄積」(マルクス経済学第5講) 経済セミナー 5号

「資本の循環と回転」(マルクス経済学第6講) 経済セミナー 7号

「再生産表式(7)」(マルクス経済学第7講) 経済セミナー 8号

「平均利潤と生産価格(8)」(マルクス経済学第8講) 経済セミナー 9号

「利潤率低落の傾向(9)」(マルクス経済学第9講) 経済セミナー 10号

「商業資本と商業利潤(10)」(マルクス経済学第10講) 経済セミナー 11号

「生産的労働とサービス」 三田学会雑誌 50巻12号

「近代経済学と労働価値説—対決する2つの経済学(11)」 エコノミスト 35(23)

「レントレ(Lendle)『現代ブルジョア経済学の哲学的基礎と方法論』」(訳) 岸本誠二郎・都留重人監修
講座「近代経済学批判」補巻「近代経済学批判論文集」

「デイヴィット・リカード」 日本評論新社編集局編「経済学史の12人」 日本評論新社

「近代経済学による現状分析と政策」 岸本誠二郎・都留重人監修 講座「近代経済学批判」東洋経済新報社

「『資本論』の具体化とプラン問題—戦後経済学の到達点(理論一般)」 経済評論 6(2)

「資本主義と社会主義」 編集 岸本誠二郎監修 東洋経済新報社

1958年

社会学辞典 項目:「価値学説史」 有斐閣

「『資本論』研究史」 ミネルヴァ書房

「利子附資本と利子」(マルクス経済学第11講) 経済セミナー 12号

「土地所有と地代」(マルクス経済学第12講) 経済セミナー 14号

「近代経済学と労働価値説」 エコノミスト編集部編「対決する二つの経済学」 毎日新聞社

1959年

「『精神現象学』の疎外論」 三田学会雑誌 52巻12号

「疎外論の経済学的意義」 三田学会雑誌 52巻1号

「商品論解釈の疑点」 経済評論 8(4)

「経済学史の有効性」 三色旗 131号

故遊部久蔵教授著作目録

- 「価値論研究史」 慶應義塾創立百年記念 慶應義塾大学経済学会編 「日本における経済学の百年」 上巻
1961年
「マルクスの抜萃帖について」 三色旗 157号
「資本論辞典」 久留間敏造他編 項目：「原料」「商業利潤」「資本の解放と拘束」「生産価格」「生産手段」「生産要素」「直接生産過程」「直接的生産者」「費用価格」「平均利潤」「平均利潤率」「補助材料」「利潤」「利潤率」「労働手段」「労働対象」 青木書店
- 1962年
「ジョン・フランシス・ブレイ(一)」(資料) 三田学会雑誌 55巻1号
「ジョン・フランシス・ブレイ(二)」(資料) 三田学会雑誌 55巻2号
「ジョン・フランシス・ブレイ(三)」(資料) 三田学会雑誌 55巻3号
「ジョン・フランシス・ブレイ(四)」(資料) 三田学会雑誌 55巻4号
「『神と人間との統一』ジョン・フランシス・ブレイ主義研究(I)」(資料) 三田学会雑誌 55巻12号
- 1963—64年
「『資本論』の成立 1840年代」 遊部久蔵他編 「資本論講座」1巻 青木書店
「原典解説」 遊部久蔵他編 「資本論講座」4巻 青木書店
「子規庵の30分」 三田評論 627号
「マカロックの労働観」 三色旗 192号
「私の読書遍歴」 三色旗 200号
「労働価値論史研究」 世界書院
- 1965年
「明治100年—回顧と展望・経済学史研究の曲り角」 三田評論 634号
「経済学辞典」 大阪市立大学経済研究所編 項目：「グレー」「プレー」「マルクス価値論争」「利潤」 岩波書店
「世界大百科事典」 項目：「価値」「剰余価値」 平凡社
- 1966年
「経済学者の話：カール・マルクス」(その1) 三色旗 217号
「経済学者の話：カール・マルクス」(その2) 三色旗 218号
随筆 広場<古典と読書> 塾 5号
- 1967年
「資本論の初版本」 塾 6号
「経済学部長紹介「談話」」 三田新聞 10月4日付
「リカード派社会主義者とマルクス」 経済学史学会編 「『資本論』の成立」 岩波書店
「学者と蔵書 アダム・スミスの場合」 三田評論 605号
「商品論の成立」 三田学会雑誌 60巻9号
- 1968年
「学問に広い展望を」 慶応通信 243号
座談会「慶應義塾の教育」—学部長にきく一時間— 塾 2号
座談会「通信教育の現状と将来」 慶応通信 245号
「動物好き」 三色旗 238号
「マルクス経済学」 春秋社
「マルクス経済学—とくに競争論研究について」 経済学史学会年報 6号

1969年

紹介「諸国民の富」塾 7巻6号

遊部久蔵著「経済価値論」の参考文献紹介 三色旗 265号

1970年

〔書評〕内田義彦他著「経済学史」〈経済学全集第3巻〉筑摩書房 エコノミスト 8月25日号

「『経済学批判要綱』における商品論」三田学会雑誌 63巻5号

1971年

「私の古典：マルクスの『資本論』」三田評論 702号

「フランス語版『資本論』第一巻第一章「商品」の研究—ドイツ語本文との比較対照—」三田学会雑誌 64巻2・3号

「メンガー財論の基本的問題」三田学会雑誌 64巻11号

紹介「経済学の辞典(一)」(千種義人と共著) 三色旗 282号

紹介「経済学の辞典(二)」(島崎隆夫他3名と共著) 三色旗 283号

「『資本論』研究史」覆刻版 ミネルヴァ書房

1972年

「塾の古典 気賀勘重訳『国富論』」三色旗 297号

〔書評〕高橋誠一郎著「随筆慶應義塾」(父兄のための一冊の本) 塾 5号

1973年

「フランス語版『資本論』第一巻第二章「交換過程」の研究—ドイツ語本文との比較対照—」三田学会雑誌 66巻12号

「商品論の構造」青木書店

1974年

「社会経済思想史」経済学会連合編「経済学の動向」東洋経済新報社

1975年

「故為田朝一郎氏寄贈経済学古典図書について」三田評論 748号

「フランス語版『資本論』第一巻第三章第一節「価値尺度」の研究—ドイツ語本文との比較対照—」三田学会雑誌 68巻1,2号

1976年

〔書評〕林直道「フランス語版資本論の研究」(大月書店刊) 朝日新聞 4月19日

紹介「高橋誠一郎著『随筆慶應義塾』」別冊塾生案内「大学はかくありたい」

「『経済学—哲学手稿』第一手稿の分析」経済学史学会編「『国富論』の成立」岩波書店

「講座経済学史」(I~V)編集 同文館

1978年

遺稿「フランス語版『資本論』第一巻第三章第二節「流通手段」の研究—ドイツ語本文との比較対照—」

三田学会雑誌 71巻5号

〔付記〕この目録は、遊部先生の生前の著作活動の全貌を明らかにするべく作成された。ただ、先生の著作活動は、戦前、戦後ともきわめて広範囲にわたり、今日時点で確認できないもの多々あり、遺漏多きを怖れる。ここでは、学術雑誌に発表された論文、著書を中心に採録した。なお本目録の粗稿は、大学院経済学研究科学生的場昭弘、大島幸治両君の作成になるものである。両君の労を多としたい。 飯田裕康